

病理検体を用いた多様な組織型をとる肺腺癌で 発現する因子の網羅的解析

研究代表者：森井英一（病態病理学・教授）

肺腺癌は多様な組織型を有し、組織型によりある程度の予後予測が可能です。ところが、組織型は病理診断医の主観で決定されるため、客観的な因子による組織型の決定が望まれます。そこで本研究では、客観的な組織型決定に役立つ因子を同定する目的で、病理診断に用いた残余パラフィンブロックから RNA を得て、肺腺癌で発現する因子の RNA を網羅的に解析する RNA-seq を行います。この RNA-seq により、組織型が異なれば発現量が変化する因子を単離します。単離後、その因子が発現しているかを再度パラフィンブロック、あるいは細胞診断に用いた残余検体で免疫染色により確認し、組織型の客観的判断に有用であるかを検討します。

①対象

大阪大学医学部附属病院病理部にて診断された肺腺癌のパラフィン包埋ブロック40症例を対象とします。患者の氏名、年齢、性別などの個人情報が必要としません。

②研究機関名

大阪大学医学部附属病院 病理部／大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学
大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器外科

③目的

多様な組織型の決定を客観的に行う上で役立つ因子を単離することを目的とします。

④方法

大阪大学医学部附属病院病理部で病理診断に用いた残余パラフィンブロックを用いて、多様な組織型をとる肺腺癌で発現する因子を RNA-seq により網羅的に単離します。単離後、その因子が発現しているかを再度パラフィンブロック、あるいは細胞診断に用いた残余検体で免疫染色により確認し、組織型の客観的判断に有用であるかを検討します。

⑤意義

肺腺癌の組織型決定に役立つ客観的な因子を単離し、組織型決定プロセスにおける客観性を担保します。

⑥ 個人情報の扱い

「連結可能匿名化」を行い、個人情報を保護します。

（研究対象者のデータや検体から氏名等の個人情報を削り、代わりに新しく符号又は番号をつけて匿名化を行います。研究対象者との符号（番号）を結びつける対応表は厳重に管理します。）

⑦ 問い合わせ先

森井 英一

大阪大学 大学院医学系研究科 病態病理学

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15

電話：06-6879-3711, FAX：06-6879-3719

メールアドレス morii●molpath.med.osaka-u.ac.jp (●を@に変えてください。)

⑧ 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

本研究は、既存試料等の提供により行われますが、試料等は匿名化を行います。また、試料を利用する際には、所属する組織の代表者等に対し、その旨の報告を行います。

本研究は、介入を伴わず、「人を対象とする医学系研究に関する指針（平成 27 年 4 月 1 日施行）」において「観察研究」とみなされるため、被験者から インフォームド・コンセントを受けることを必ずしも要しません。ただし、これを省略する場合には本臨床研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開し なければならないため、本ホームページに以下の情報を公開します。

- ① 対象
- ② 研究機関名
- ③ 目的
- ④ 方法
- ⑤ 意義
- ⑥ 個人情報の扱い
- ⑦ 問い合わせ先
- ⑧ 研究対象者に研究への参加を拒否する権利を与える方法

本研究に関して参加施設が保有する個人情報に関しては、被験者等により開示を求められた場合には遅滞なく個人情報を開示します。個人情報の訂正、利用停止、第三者への提供の停止を求められ適正と判断された場合には、これを行います。保有する個人情報に関して、被験者等からの苦情・問い合わせに迅速に対応します。個人情報開示の求めに対して、開示しない場合には、その理由を提示します。これらの依頼や詳細については、上記の問い合わせ先までご連絡ください。